

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 7月 4日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	イリノイ大学アーバナシャンペーン校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 情報)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

イリノイ州の州立大学で、ビジネスとエンジニアリングに強い学校です。大学街になっていて勉強に集中するにはとてもいい環境になっています。

留学した動機

もともと機械と情報という二つの分野に興味を持っており、進学振り分けの際に東京大学では主に機械分野を、交換留学を通して情報工学分野を学ぼうと考え機械情報工学科を選択しました。留学先に選んだイリノイ大学は全米でも特にCSに強い大学として有名であることから志望しました。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015年	8月~	2016年	5月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部3	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	修士1	年生の	11月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			45.5	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			19	単位
	留学後の取得(予定)単位			64.5	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

学部4年で研究室配属だったためその前に機械と情報双方の分野を比べ自分の関心がより強い研究室を選択できるよう学部3年の秋学期からの留学を選択しました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

初年度協定校だったこともあるとは思いますが留学の許可が出るまでに非常に時間がかかりました。留学生の数が非常に多いため、寮と履修する授業に関しては現地生が優先されます。寮に関してはなるべく早く申請を完了し、授業に関しては事前に自分の所属する学科のアドバイザーに履修したい科目を申請しておくことが重要だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

二重国籍だったためビザ申請は必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

滞在するために受ける必要のある予防接種は接種歴を証明できる書類を持っていかないと全て受けなければなりません。学生として大学に所属するための接種期限が設けられているので早めに保健センターを訪問するといと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学の国際課の方で勧められていた付帯海学に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学許可願いを所属学科・学部に提出する必要があります。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

情報系の書籍は英語から和訳されたものが多いため原本を借りたり購入し、事前に履修予定の授業に関する英語に触れるようにしていました。出発前のIELTSのスコアは7.5点でしたが特に授業内のディスカッションに苦労しました。履修する授業の注意としては中国系またはインド系の教授が開講している授業はかなりの確率で訛りが強いので、リスニングに相当の自信がない場合は様子を見た方がいいと思います(CSでは授業が全て録画されているタイプだったので2、3回聞き直してようやくなんとやっているのかわかりました)。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

寮の食事はビュッフェ形式ですが日本で出される食事と比べると格段に質が落ちます。アジア系のレストランも多くありますがいずれも日本と比べると割高なのでインスタントで保存のきく食料を持っていくことをお勧めします。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
CS 225	4	●	CS 241	4	●
CS 233	4		CS 296	1	●
CS 412	3		CS 491	1	
CS 427	3	●	CS 498 (Algorithm and Computation)	4	●
			CS 498 (Applied Machine Learning)	3	●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

CSの授業はどれもMP(Machine Problem)と呼ばれる課題が中心となっており、一定時間ごとに提出したプログラムに対して点数がつき提出期限まで修正をできるというタイプの課題でした。
毎週授業外で出される課題、ディスカッションでの課題、midterm2つ、final1つで成績が決めます。
また成績の基準は東大よりも厳しく、だいたい授業で93%以上でAとなっていたため毎日課題に追われていました。
一方でTAIによるオフィスアワーや授業のフォーラムが非常に活発で、疑問点に関してはほぼ全て解決することができたため学習環境としては非常に良かったと思います。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

取得単位数は平均的でしたが、CSの科目はどれも非常に重く一つの課題に10時間以上かかることは当たり前という授業を前後期4つ取っていたため、毎日授業、図書館、寮を往復して過ごしていました。
特に英語に慣れるまでは授業の内容を理解するために何度も録画されている授業を見返していたため、最初の一月は睡眠時間が平均4-5時間になっていました。
課題は2-3人のグループで取り組んで良いものも多く、授業内で積極的に他の学生と絡んでいくことが自分を助ける意味でもとても重要でした。

④学習・研究面でのアドバイス

非常に多くの課題が出ます。全部ではありませんが大半の課題は他の学生との協力を許しているので早い段階で授業内(主にディスカッション)で友人を作ることを勧めます。たとえ英語面でのハンデがあってもこちらの言っていることが正しいと相手が分かってくれば辛抱強く聞いてくれます。特に最初の数週間は十分に時間をとってディスカッションに臨むといいと思います(事前課題が出ていたためそれを全て解いた状態で臨んでいました)。ディスカッションの内容がわかっていないとただでさえ会話が早いので友人を作るどころではなくなってしまうので準備がとても大切だと思います。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

ルームメイトが非常に大切だと思います。私の場合大変運が良いルームメイトに恵まれたため毎日夜まで話していました。そのため後述する就職活動にもつながりますが2ヶ月ほどで英語でインターンの面接を受けられるレベルにまで語学面での改善をすることができました。パーティーなどで初対面の相手との会話というのも大変重要ではありますが、より深い話をするにはどうしても長く時間を過ごす相手でないといけないので、寮を選択するルームシェアをすることをお勧めします。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

一年を通して学期中は割り当てられた寮に、休みの期間はルームメイトの家にお世話になっていました。寮に関してはミールプランが付いてくるものが多いですが、最終的にかなり割高に感じるかと思うのでミールプランがない分安くなっている院生向けの寮も検討するといいかと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

冬は非常に厳しいです。例年よりもかなり暖かいと言われていましたがそれでも東京と比べると格段に冷え込みますので防寒対策はしすぎるということはないと思います。お金に関してはキャッシュパスポートを使っていました(入金した分だけ使用できるクレジットカードのようなもので両親に頼み毎月振り込んでもらっていました)。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)

治安はキャンパス内であれば深夜に出歩く人がいるほど非常に安全です。一方でキャンパスの中だけではできないことが非常に限られているため休息も兼ねてダウンタウンに行ってみるのもいいと思います。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮費を学期ごとに一括で支払い、それ以外は寮のご飯を逃した際に月3000円ほど外食をしていました。今回の留学費用に関しては全て日本でアルバイトやインターンで稼いだ分で支払っていたため最低限の支出になるようにしていました。

・留学に要した費用総額とその内訳

渡航費: 20万円
寮費: 120万円
食費: 5万円
生活用品: 10万円 (モニター、冷蔵庫、携帯電話など)

教科書は全て電子化されたPDFで公開されていたため購入しませんでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学の奨学金のページから応募したJASSOの奨学金で月8万円を頂いていました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

スポーツはジムに毎日通っていたため、室内サッカーをしている人たちに混ぜてもらっていました。春学期終了後、学部3年の後期から復学するため休学してFacebook本社にてインターンをしています。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

日本からの留学生の面倒を大変よく見ていただいていた院生の方が日本に帰ってきてしまいました。small groupというキリスト教系のグループやJCT(Japanese Conversation Table)という団体の学生は非常に面倒見のいい人が多かったので大変助けてもらいました。学習面ではTAによるサポートが非常に充実しているためオフィスアワー等ぜひ活用してください。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館とジムしか利用していませんでしたが、全体的に大学の設備は非常に良かったです。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

CSの授業を取っていた建物にGoogleやFacebookなど有名企業のリクルーターが頻繁にきてリクルーティングをしていたため、授業で知り合った友人と共にインターンに応募しました。アメリカでのインターンは日本でいう内定に直結しているため選考もしっかりしておりアメリカでの就職活動でどのようなことが求められているのか経験できたことは非常に良かったと思います。アメリカでのインターンは日本でいう内定に直結しているため選考もしっかりしておりアメリカでの就職活動を経験できたことは非常に良かったと思います。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

私の場合は実際にインターンをすることができ、海外の企業での就業体験をすることができたのでいい意味で視野が広がったと思います。
将来的に海外での就職を考えている方はぜひ一度現地生の就職活動にも参加してみるといい経験になると思います。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

日本人の交換生の方の多くはポストンキャリアフェアに参加されていたため日本企業への就職活動のために行ってみるのはいいと思います(費用の関係で参加できなかったため参加を考えている方は宿等早い段階で確保することをお勧めします)。
現地生に混ざっての就活をする際には早い段階で自分のレジュメを作っておく必要があります。大学のキャリアセンターで添削をしてくれたり面接の練習をしてくれたりするので存分に活用してください。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

情報工学の理論面の学習、語学能力の向上、海外での就業体験をもととの目的にしていたため、全てを満足のいく形で達成することができました。
留学先の大学が特に留学生が多い学校であったため、様々な文化的な背景をもった学生と触れ合うことができ自身の価値観にもいい意味で幅ができたと思います。

②留学後の予定

留学期間で自分の進みたい分野も決まったため、帰国後は研究に専念できればと考えています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私自身の目標でもあった語学能力の向上というのは留学生に共通する一つの目標だと思いますが、実際のところ海外の大学でも生活をしていく上で自分で意識しないと英語を話す機会は思ったほどありませんでした。
授業のディスカッションなどでも英語も満足に喋れない留学生ということでないように扱われることも多々あり、楽な方に流れたくなる時も多々あるかと思っています。

交換留学の一年間というのは非常に短いです、辛い時苦しい時というのは必ずあると思いますが、自分が何をしに留学をしているのかを見失わないよう自分の中に芯をもって頑張ってください。
日本の中にいるだけでは得られない機会も沢山あります。目標をしっかりと決め、後悔のない、実りある留学生活を送られることを心より願っています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東京大学の留学関連のページ、イリノイ大学から送られてきた書類

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

